

Press Release

2025 年 4 月 18 日

報道機関各位



武庫川女子大学
Mukogawa Women's University

広報室

(Tel 0798-45-3533)

(E-mail kohos@mukogawa-u.ac.jp)

**社会情報学科情報メディア専攻の学生たちが、
「フェアフィールド・バイ・マリオット 道の駅プロジェクト」と
奈良県天理市の観光課題に挑みます。**

武庫川女子大学社会情報学部は、「フェアフィールド・バイ・マリオット・奈良天理山の辺の道」とコラボし、ホテル運営の課題解決を目指す PBL(課題解決型授業)を 4 月 17 日からスタートしました。都市部のオーバーツーリズムが問題視される一方で、観光客誘致に課題を抱える地方も多くみられます。授業では、観光地としてのポテンシャルを秘めた奈良県天理市の魅力を大学生の視点で見直し、新たな地域活性化施策の企画、ホテルと地域の新たな関係構築、次世代の観光・ホスピタリティ人材の育成等に産学連携で取り組みます。

「奈良天理山の辺の道」を運営するのは、「フェアフィールド・バイ・マリオット 道の駅プロジェクト」(所在地:大阪市北区大淀中、最高運営責任者:大嶋 茂)。全国に宿泊特化型のホテルを 29 施設運営し、ホテルを拠点に「地域の知られざる魅力を渡り歩く旅」のスタイルを提唱しています。「フェアフィールド・バイ・マリオット・奈良天理山の辺の道」は、道の駅(なら歴史芸術文化村)に並んで立ち、家族旅行などに人気があります。

ただ、ホテルとしての認知度が十分とはいえず、古都奈良の観光資源を十分に生かし切れていなかったため、「Z世代の学生の視点を取り入れよう」と、実践的な学びを展開する武庫川女子大学社会情報学部にもコラボを呼びかけ、2025 年度前期の授業「総合科目プロジェクト演習 II」での実施が決まりました。

社会情報学科情報メディア専攻の 2 年生 96 人が受講。全 15 回の授業を通して「友人や家族と

ホテルを利用したくなるような戦略」や「集客だけでなく、天理市の地域活性化にもつながる戦略」などをグループワークで練り、情報発信に関する課題の分析や改善、地域活性化など、安定した高稼働につながる施策を7月中旬の最終発表に向けて提案します。

4月17日に行われた第1回授業では、「フェアフィールド・バイ・マリオット」の歴史やコンセプトが大嶋茂最高運営責任者から学生に伝えられました。また、「フェアフィールド・バイ・マリオット・奈良天理山の辺の道」の星野滋支配人からは、天理市の観光名所や特産品が紹介され、同ホテルが持つ強みや弱みが示されました。

学生からは「海外からの観光客を呼び込むための外国語対応」「ホテルで楽しめるイベントの実施」や「施設にレストランがなく、隣接する道の駅が早く閉まることへの対応」など質問が相次ぎ、初回から熱のこもった授業となりました。

フェアフィールド・バイ・マリオット・奈良天理山の辺の道 支配人 星野滋さんのコメント

「当ホテルは宿泊を通じた地域とのつながりを大切にしています。学生の柔軟な発想がホテル運営や地域活性化にどのように活かされるのか楽しみです」

■フェアフィールド・バイ・マリオット 道の駅プロジェクト(<http://www.fairfield-michinoeki.com>)は、「未知なるニッポンをクエストしよう」を掲げ、地域ならではの体験や全国の知られざる魅力の発見を目指しています。

■フェアフィールド・バイ・マリオット・奈良天理山の辺の道(<https://www.marriott.co.jp/osaft>)

住所:奈良県天理市杣之内町元山口方 438 番 7

客室数:99 室

授業に関する取材のお申込みは下記までお願いいたします。

■武庫川女子大学広報室

【電話】0798-45-3533

【メール】kohos@mukogawa-u.ac.jp

■フェアフィールド・バイ・マリオット 道の駅プロジェクトに関するお問合せは下記へ

【電話】:06-6743-4793

【メール】shizuka.oishi@ffttripbase.com

このプレスリリースは武庫川女子大学から西宮市政記者クラブと大阪科学大学記者クラブにお送りしています。

また、同内容をフェアフィールド・バイ・マリオット 道の駅プロジェクトから PR Times に配信しています。



フェアフィールド・バイ・マリオット 奈良天理山の辺の道

第1回授業の様子

